

# 父親の育児に関する意識—幼稚園・保育所の保護者調査から—

○中村真弓（尚絅大学短期大学部）

山瀬範子（中国大学短期大学部）

住田正樹（放送大学）

## 1. 発表の目的

本発表の目的は、幼稚園・保育所を利用する父親の育児に関する意識を明らかにすることにある。

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という性別役割分業の下では、父親の役割は、経済的扶養であるとされてきた。しかし、1990年代から、この性別役割分業意識が揺らぎ、父親に対しても、より幅広い育児への関与が期待されている。船橋（1999）は、父親・母親を問わず、親というものの子どもに対する基本的な役割とは、①子どもの成長に必要な経済的資源を供給する「扶養」（provider）、②子どもの社会規範の学習や価値観・行動様式の確立を支援する「社会化」（socialize）、③子どもが出来ないことを援助する「世話」（career）の3つを挙げている。つまり、父親に対して、「扶養」のみならず、「社会化」、「世話」役割を果たすことが求められているのである。しかし、実際には、育児休業を取得した男性の割合は、1.56%と、女性の89.7%と比べると、男女間で大きな格差があり（厚労省、2008）、育児時間についても、父親が育児に充てる時間は少ない現状がある。

このような現状において、若い父親たちは、育児に関してどのような意識を持っているのだろうか。

## 2. 調査の概要

本発表において取り扱うデータは、幼稚園・保育所を利用する保護者を対象にした質問紙調査で得られたものである。2007年10月から12月にかけて、福岡市及び熊本市内の4幼稚園と3保育所の協力を得て、そこに通う3～6歳の幼児をもつ父親及び母親を対象に実施した。調査方法は、園のクラス担任から、園児に調査票を配布して、父親及び母親に記入させる留置法を採用した。きょうだいで通園する場合は、長子に配布するようにし、各世帯1部の回答を得るようにした。1001組の配布に対し有効回収票数は607組であり、回収率は60.6%である。

## 3. 調査結果の分析

### (1) 父親と母親の役割

#### ① 育児期の始まりと終わり

まず、育児期の始まりは、妊娠が分かってから（41.7%）、出産してから（37.4%）、出産準備以降（12.5%）となっており、半数が出産以前に、すでに「育児が始まっている」と捉えていることがわかる。次に、育児期の終わりについては、どうであろうか。中学校に入学した頃（44.1%）、その他（34.8%）となっている。

#### ② 父親と母親の役割について

父親と母親の役割が同じであるか否かについての設問に対しては、約8割の者が、それぞれの役割が違うと（「どちらかといえば違う・46.0%」+「違う・30.4%」）答えていた。

また、仕事と育児のバランスについて尋ねたところ、父親であれば、仕事と育児に同じようにかかわるべき（69.0%）であり、母親であれば、育児を優先すべき（63.7%）であるという意見が多く見られた。ここで、父母の仕事と育児のバランス意識をクロスして整理し、3タイプを示す。まず、父親は仕事と育児を同等で、母親は育児優先という意識（35.8%）であり、次いで、父親も母親も育児と仕事を同じようにするべきであるという「平等両立型」（31.5%）、父親は仕事優先、母親は育児優先といういわゆる「性別役割分業型」（22.5%）となっている。

### (2) 3タイプ別の育児をめぐる意識

#### ① 父親の考える育児行為

育児とは具体的に何をすることだと考えているのだろうか。育児行為としては、世話、扶養、社会化に関する事項を挙げた。全体的に見てみると、「基本的生活習慣を身につけること（64.1%）」、「社会的ルールを教えること（53.4%）」、「情操を育むこと（49.0%）」、「基本的世話をすること（22.1%）」となっている。タイプ別で有意差が見られたのは、性別役割分業型には、「基本的世話をすること（30.2%）」や「経済的基盤を整えること（11.4%）」が多い。

#### ② 子育ての意味

全体的に見ると、子育てとは、「子どもを育てることで、自分が成長する（68.6%）」、「家族の絆を深める（68.3%）」、「次の社会を担う世代をつくる（59.7%）」となっている。タイプ別では、平等両立型ほど、「子どもを育てることで、自分が成長する（74.7%）」、「子育てをするのは楽しい（41.1%）」とするのに対して、性別役割分業型では「家の存続のため（22.1%）」、「老後の面倒をみてもらう（8.7%）」が多く見られた。

#### ③ 育児をめぐる感情

育児をするなかで生じる肯定的・否定的感情については、全体的には、肯定的な感情を抱いている者が大多数である。タイプ別では、平等両立型は、「子どもを育てることは楽しいと思う（76.0%）」、「子どもを育てることで自分も成長したと思う（47.6%）」、「子育てによってさまざまな経験ができた（60.5%）」、「子育てによって生活が充実している（59.9%）」一方、「子どもを育てることに不安を感じる（12.2%）」が見られた。

## 4. まとめ

発表当日、詳細な資料を配布いたします。